

---

# 三日月

manekikuma

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

三日月

### 【Nコード】

N6918W

### 【作者名】

manekikuma

### 【あらすじ】

一年前に終わった恋から踏み出せないでいると、お見合いの話が降って来て・・・相手は食えない男。私は、こんな男としか知りえないのか？諦めて契約結婚しました

KYですか？

「私と結婚して頂くには条件があります。ひとつは私に興味を持たない事。ふたつ目はお互いに干渉しない事。それを飲んで頂ければ喜んで結婚しましょう」

今、目の前で言われた事に思わずため息が出る

結局、みんな同じなんだ。この人もきつと浮気は男の甲斐性とか言いそうだもんね。

それなら誰でも同じだから別にここで手を打ってもいいかもしれない

「分かりました。それなら私からも条件があります。私の事にも興味を持たない事。仕事は今まで通り続けさせてもらえる事。なんでしたら戸籍が汚れないように偽装結婚でも構いませんよ？」

「それは流石にダメなんじゃないですか？そんな事をしたらお見合いの意味がない」

そんな事気にする玉かよと思いつつも

「じゃ、契約しましょう。期間は一年間。条件はお互いに興味を持たない。お互いに干渉しない。仕事は今のまま続けるって事で」

私の言い分に目の前の男がフツと笑った

-----  
-----

こんなに結婚とか興味が無くなったのはきつと一年前

あの日待ち合わせていた公園のベンチに、見慣れたちよつといかつい感じの顔をした濃いグレーのスーツの男と、見慣れないフェミニンなワンピースのちよつと幼い感じの女の子が笑いながら座っていて、あまりのラブラブ振りにとても近づけるような雰囲気じゃない。

それでも、会社から

「どうせ会っならコレ渡しといて」

そう頼まれた書類は渡さなくっちゃいけないし、これはどういう事なのか一応聞いてみなくちゃいけない。だってここで私と待ち合わせたのはいかつい感じの男の方。それも、来いつて言っただのは向こうなんだ。いったいどういう事？なんて・・・もう結果なんて聞かずとも分かるけど、もしかしたら何か訳があつての事かも知れない。

KY丸出しで二人に近づき

「お疲れ様です。和則さん。これ<sup>わい</sup>和合さんから頼まれた書類です。明日まででよいので目を通しておいってください。と、それと・・・今日ってデートだつて言つてませんでした？」

わざと「私と」って主語は入れなかったんだけど、奴は私を睨んでから、可哀想なモノを見る目で私を見ると

「オマエふざけてるのか？それともKYなのか？彼女でもないくせに今の状況を読めよ。書類は確かに受け取った。和合にも邪魔すんなつて言つてやれ。」

それこそ説明も言い訳も無しに私の恋は終わってしまった。確かに  
「来い」とは言われたけどデートするなんて言っていなかったからな・  
・

3年付き合っていた恋人に振られた。

落ち込んでますよ？

あっさりと知らない女に攫われてしまった事に落ち込んでいる私に、友人たちはいい加減に諦めなよと言うけど、何だか自分の気持ちはいつまでも治まらなくて、治り切れない傷のようにジクジクと痛むたしかに俺様だったし、きつい事も言うけど、優しい時はトコトン優しく、私なりに好きだったんだよね。だから「彼、彼女」の関係が終わってしまっただけからは、同じフロアにいるあの人を、見ない訳にも話さない訳にもいかず、ただ張り付けたような笑顔で対応するしかなかったから、辛かった。

周りも二人の関係が終わってしまった事ぐらいお見通しだったのか、一緒に組んでする仕事はできるだけ避けてくれたみたいだし、和合さんに至っては机の位置まで変えてくれるほどの力の入れようだった。おまけに何度か香と一緒にヤケ酒にも付き合ってくれた。

くそう。和合さんに彼女が居なければ間違いなく和合さんと付き合い続けていたな。でも和合さんは香の彼氏だし、勿論心から幸せになってもらいたいと思ってる。

こんな相反する思いで、少しでも邪な事考えてたなんて知れたら、流石の香にも見捨てられるかも知れないな。

和合さんと幸せそうにほほ笑む幼馴染でもあり親友の顔を見てこっそりため息をついた事は内緒

そんな時

「祥子、ねえ占い行こう占い。とりあえず和則さんとの事吹っ切れるようにさ。あわよくば、いつ頃に「出会い」があるか分かるかも知れないしさ」

香に誘われいまいち乗り気じゃないまま、占いに行くと・・・

「その方とは、男女の縁が無かった。と、そういう事ですね」

どれだけたつても、未だに悶々としている私に向かって、「一見、見た目は普通のおばちゃんだけど、よく当たる占い師と評判の人」がにべも無く言い切るのをただぼんやりと聞いていた。強制的にここまで引っ張ってきた香が

「ほら、だからアンタは悪くないってさ」

占い師の言葉にホツとしたような顔をしてすかさず口を挟んだ

浮気はされていたし、別れた原因も浮気相手を見せつけられたから浮気を咎めれば「浮気は男の甲斐性だ」と言われれば黙るしかなかったし、許してきたつもり。でも、あそこまで私の事を拒否されたらどうしようもない

「要するに、私に女としての甲斐性がないか、どれだけ魅力がないかってとこだね」

なんとなくそういう縁がなかったって事には納得したし、あらためてそんなことを教えてくれなくていいから

「もうすぐ、あなたを本当に必要としてくれる人がきつと近いうち現れますよ」

はつきり言つて、そんなの信じられるかい。それがいつなのか具体的に言つてみなよ

ため息を吐きながら、隣で香が一生懸命占つて貰っているのを見ていた

正直、もう恋愛するなんて疲れたから「本当に必要としてくれる人」なんて現れなくてもいいし、そんな気力も体力もない。だいたいあんなのはもうこりこり

まあ、親からすればいい年なんだからそろそろ孫の顔を見たいっていうのも分かるんだけどね



落ち込んでますよ？（後書き）

愚痴ってますね。ハイ

どうしてお見合いなのさ？

だからって、占いから帰ってきたのを待ち構えるみたいに釣書を持つてくるってどうなのよ。おまけに占いに行った事なんて筒抜けだし

香・・・あんた、うちのお母さんとグルになって仕組んだわね。怒りがこみ上げてきた。

「あのさ？心配してくれるのは嬉しい事なんだけど、私は香みに綺麗でも要領良くもないから、そう簡単にいい人なんて見つかるわけないし、ましてそんな人がいたら１年もぐずぐずしてないよ。もうすぐ人妻になるんだし、香が幸せならそれでいいじゃない。私まで巻き込まなくていいから・・・ね？」

怒りをオブラートに包んで少し突き放した言い方をすると、香は何か言いたそうな顔をして眉をしかめていたけど、知らないふりを決め込んだ。

この件はもう構わないでほしい。それが私の本音

確かに、正直なところ立ち直ってないけど、仕事も面白くなってきたし、一人で暮らしていける自信もついたから、男なんて要らない。振り回すだけ振り回わして、おまけに自分勝手に振る舞われるなんて懲り懲りだし、それが一生ついて回るなんて考えたくもないよ。だから、もうすぐ現れるっていう私を必要としてくれる人なんてクソくらえだ

「嫌だ。絶対にお見合いなんてしないんだから」

「でもねえ。お父さんの上役の方が持つてきて下さったお話だから、無下にお断りもできないのよ。」

「そんなの知るか。」って言いたい所だけど、この景気だし、断つてリストラの対象になんかなつちやったら目も当てられない。確かまだ家のローンが残ってるはずだし、私がそこまで稼げるかっていえばそれは無理な話だ。それなら

「お母さん。会っただけあつたら断っちゃってもいいんだよね？」  
断る気満々で一応聞いてみると

「まあ一応はね」

なんですか？その歯切れの悪い言い方。まさか私に拒否権は無いとでも？

じとーっと見つめていると、観念したように

「先方からどうしてもって望まれたもんだから、そんなに無碍には断れないんだけど？」

おどおどしながら申し訳なさそうに言う母に返す言葉も無く

「そう。分かった」

なんで圧倒的不利な訳？でも、どうせ甲斐性もなけりや魅力も無い私を望むなんて、どうせつまらない男だろう。いざ会ってみたら幻滅したりして

そう思って、名前とお見合いの日取りだけ聞いて、釣書も何も見な

かった。

だから、当日訪れた男があまりに美形で驚いた事は内緒にしておこう。でも、どこかで見た事あるような無いような。ってか雰囲気似てる人なら見た事あるかも。

そう思っていると、どうやら同じ会社にいるらしい。経理部なんて興味も無いから名前も知らなかったし、顔は見た事あるかなってくらい。

だいたいその顔だし、エリートだし、お見合なんかしなくても充分結婚相手なんて選り取り見取りで決められそう。

でも、結局はまだ特定の女を絞り切れなくて女よけが必要だったから、こんな地味な女を選んで条件を付けた訳か

条件決めましたけど？

いいでしょ。その案に乗った。

一度結婚してしまえば、たとえ別れたとしても後は「結婚しろ」とは、そう煩くは言われないはず

私からしても全然不利じゃないし、一年後バツ1になったとしてもいまだき珍しくもないから、どーって事ないしね。1年の辛抱だし、お互いの利益が重なるんだから。

見合いの定番の「ここらは若い人どうしで」って言われて、ホテルの庭を歩きながら私たちは契約を結んだ他に、いろいろな取り決めをした。

結婚式は概ね半年後にする事

（べつに式なんて挙げなくてもいいんじゃない？と言ったら、それはマズイでしょうと反論された。お見合いと言う割には仲人も立てず、なぜか向こうの両親が席についていた。第三者が居ない分、曖昧にはできないのかも知れない）

ホントの身内だけで式を挙げる事

（こんな茶番に巻き込まれるのは身内でもごく親しい人に限った方がいいからね。事を大きくすると、後々大変になるのは目に見えている）

エンゲージリングは無し。

マリッジリングは式を挙げる都合上用意するにしても、リングの内

側に名前もイニシャルも挙式日も無し。

（一番安い奴でいいから。なんなら、そこいら辺のファンシーショップに売ってる五百円位のやつでいいよ。って言ったら複雑そうな顔をしていた。どうせ最初から嘘なんだから、なんちゃって指輪で充分だと思っただけ。普段に指輪なんて付けるつもり無いし、契約が終わったら必要無いから捨てても惜しくないヤツがいい。それだと五百円でも高かったかな？）

結婚式を挙げる教会は希望があるそうで、一任するとして

（日取りもその時決めてくるという事になった）

結婚式の打ち合わせは、各々がタキシードなりドレスなりを決める事にして、式の当日に集合写真とか撮るんだから、わざわざ写真の前もって撮る必要もないし、特に顔を合わせてどうこうってのは必要最低限にして出来るだけ避けるようにした。

新婚旅行も無し。

結婚休暇を一週間位貰えるらしいけど、会社に報告する気もないし、一年の限定ならわざわざ名前を変える必要もない。旅行なんて一緒に行くつもりなんてないし行く義理もない。どうしても行きたいのなら、一人で好きな所に行けばいいんじゃない？

結婚後は私が別に部屋を借りて暮らすって言ったら、ダメ出しされた。

「いくら仮面夫婦だとしても、夫婦と名がつく以上、同じ家に暮らすのが基本だ」

と言われて押し切られてしまった。一緒に暮らしたりしたら、あなたに興味を持つとか言われても、衣食住のすべての事に置いて関

わりを持たなくっちゃいけない事を分かっているんだろうか？

自分の生活に踏み込まれたくないのなら、別居するのが一番手っ取り早いと思うんだけどな。

興味云々より何よりも、干渉したくなくても口に出しちゃう事だつてあるはず。

女性関係はどうでもいいけど（浮気は男の甲斐性らしいですから）食事とか？作らなくてもいいって言っならそれに越したことないけど

結局、私達がしようとしてるのは結婚に名を借りたルームシェアって事なんだね？

そこまでしてどうして結婚したいのかは分からないけど、お互いの利害が一致したってことで、とりあえず握手を交わし両親に結果を報告した。双方の両親が凄く喜んでくれたのは良かったんだろうけど、騙してるという後ろめたさがあつて、まともに顔を見られなかった。

条件決めましたけど？（後書き）

・・・完全に投げやりになってる・・・



小耳に挟みましたよ？

で、急遽私の「婚約者」となった「岡崎 樹」おかざき いつきは、社内にファンクラブなるものが存在するらしい。

バカバカしい。そんなモノがあるって事は、相手が選り取り見取りだつてのに、これからの私の一年がまるつきり無駄になると思うと悔しい。

同意してしまつたから仕方がないんだけど、どうにか婚約破棄ができないものかと機会を狙う事にした。

そんな時、皮肉なことに、いままで煩いだけと思っていた噂話が役にたつた。

「岡崎 樹」は、どうやら少し前まで、どこかの令嬢とのお付き合いがあつたらしく、どここの令嬢だかは知らないけど、ファンクラブをも黙らせるほどの方だつたらしい。でも、二人の仲も世の波には勝てず令嬢はどこかに泣く泣く嫁ぐ事になってしまい（今時、政略結婚かよ）二人の仲は引き裂かれてしまつたと、そういう経緯があるんだそうで、まあ気の毒っちゃ気の毒、残念な結果だつたねといえる。不幸の度合いは決して人の事は言えないけど。

それと、ファンクラブの方々は、すでに「岡崎 樹」がお見合いをして婚約した事を付きとめていた。

相手までは把握してないみたいだけど、ファンクラブの執念恐るべし。出来るだけ奴の傍には近づかないようにしなくちゃ。

私はその相手だと知られて、恨まれでもしたら何されるか分からない。たとえ、お飾りの婚約者だとしても、あの人たちからしてみれば憎い恋敵なんだろうから。

幸い、経理と営業は別フロアにあるから顔を合わせる事なんて滅多にないし

「社内では他人の振りをしてください」と強くお願いしたので、たとえ会ってもお互いに完全なスルーを決め込んでいる。それに、お見合いの日に交換した番号やアドレスが携帯に表示される日は一カ月しても来なかったから安心して社内を闊歩していた。

俺が見合いをした訳（前書き）

岡崎 樹サイドの話です

## 俺が見合いをした訳

お互いに気心の知れた従妹の春香がどこかの御曹司のもとに嫁いでしまった。

春香とは将来を誓った仲で、必ずいつまでも俺の隣にいるものだと思っていて疑わなかった。聞けば本人が望んだ事ではなく、資金援助のための政略結婚に近いものがあつたらしく、別れる時ただひたすら俺に非が無い事と謝罪を繰り返した。

「嫌いになった訳じゃないの。でもどうしようもない事なの」

そう言つて涙を流していた。望まぬ相手に嫁ぐ事が不憫で

「一年だけ待つてくれ。俺が必ず迎えに行くから」

そう言つて別れたのが最後だった。

それを目標にちゃんとした生活をしながらも、心にはどこか穴のあったような言い知れぬ虚脱感があつて満たされぬまま、このまま春香が相手に心を許して俺など必要としなくなるのではという焦りがあつた。

そんな心の内を誰にも曝さなかったはずなのに、アイツにはお見通しだったようだ。いつの間にか見合いの段取りをとられていて相手を聞けば自分の彼女の親友だという。

取り立てて興味も無く、強いて言えば春香と同じ土俵に立てるって事だけが魅力って言えば魅力か？

それに春香を完全に諦めて想いを振り切ったと思わせるには好都合かもしれない。

一度見合いをして断わられる事になれば、再び見合いを持ちかけられた時の断わりの材料にできるはずだ。

相手には悪いが俺のために利用させてもらうことにした。まさか「私に興味を持たない事、干渉しない事」という条件をつけているにも係わらず食いついてくるとは思っていなかった。

更に条件をつけてこれらとは予想外の事で、俺に好条件の契約を結べた事は嬉しい誤算だった。関係としては偽装結婚に近いものがあるが、それは彼女も望んだこと。「無かった事」にはできない。

まあ彼女の態度をみる限りそれはなそうだ。社内で偶然会ったとしても、今までの女たちと違って慣れ慣れしい態度を取ることもない。

まるで俺の事など眼中に無いような感じだ。俺の方がその事に戸惑っているのが自分でも信じられず、彼女との連絡を絶つことで彼女の出方を見ている。

俺が見合いをした訳（後書き）

結構、腹黒な男ですよ

怪しきは誤魔化さなくっちゃですよ？

残念ながら、華々しい女性関係を期待していた割に、なかなか「岡崎 樹」の尻尾を掴めずにいた私は、仕方なく調べるのを諦めた。

これだけ聞き込んでも何も出てこないって事は、よほどその「ご令嬢」にご執心だったって事だったかも知れないし、「興味を持たない事」って同意したわけだからギリギリの線で止めておかないとエライ事になりそうな気がしたんだよね。

でも、お見合いから一カ月たったころ

「祥子は樹さんと休みのぐらい日会ったりしなくていいの？」

すでに結婚している自分の姉から、まさかそんな事を言われるとは思っていなかった私は、自分の詰め甘さをひしひしと感じていた。

平日は残業がある時もあるものの、そんなに遅くなる前に帰りつき、休みの日は休みの日で、たまに買い物に出掛けたりはしても、今まで通りの生活を送っていた。もちろん泊まりで出掛けるなんて一度もなかったから、傍から見てる方はどうなってるのか些か疑問だったのかも知れない。

今日だってどこにも行かず、いつものジャージ姿でごろごろして、たまに甥っ子にチョッカイを出してるなんておかしかったのかな？

何よりマズイのは連絡を取り合っていない事がバレしてしまう事で

何か手を打たないと尻尾を掴む前に身内から崩れてしまつかも。そ

れでは「岡崎 樹」にひと泡吹かせてやる事が出来なくなるし、私の平穏な生活が崩れてしまっじゃない。

とりあえず、何か対策を考えなくっちゃ

一番は連絡を取る事だとは思っただけど、自分から連絡を取るのも馬鹿らしい。嘘でもお付き合いをしてる事しておく必要はあるのかも知れないけど……。

だからと言って、急に連絡を取っているふりをするものワザとらしいような気がするし？

いろいろ考えた末、会社と家の中間地点にワンルームマンションを借りることにした。

幸い少しなら貯金もあるし、離婚した後でも家に戻らなくても済むって素敵だよね。

小言を延々と言われる位ならビバ！一人暮らし。

会社は近くなるし一石何丁にもなるよ。結婚するまでの間ここを隠れ蓑にしておけば、気兼ねなく過ごせるんじゃないかな？と思うしね。

そうと決めたら、そのためのいろいろな下準備で忙しくなり、しょっちゅう出掛けるようになった私に両親も安心したような感じで（きつとお姉ちゃんとは両親から相談されただろうな）いろんな意味でホッとしていた。

だから隠れ家の方が落ち着いた頃「岡崎 樹」から結婚式の具体的



な内容を知らせるメールが届いて、げんなりしていた

怪しきは誤魔化さなくっちゃですよ？（後書き）

腹の探り合いってどこですか

そろそろ準備しなくちゃいけないですが、それはあんまりじゃない？

確かにそろそろ本腰入れて取り組まないと、時間的に余裕がないかもしれない。

いくら招待客は本当の身内だけだとは言っても決めなくっちゃいけない事がいろいろあるはずだ。

お姉ちゃんの時も、なんだかんだと準備をしてたような気がする。

もっとも大恋愛で結婚して盛大にお披露目したお姉ちゃんは、とにかく嬉しそうで

傍から見てる方がこんなにいろいろ準備するなんて面倒臭そうと思っていたから、出来るだけ簡単にして貰いたい所だけだ。

でも、まずは岡崎家に出向いてご挨拶つてのが一番の関門かも知れないな。

メールの画面を見ながら大きな溜息を吐いていた。お見合いの時以来、顔を合わせる事はあってもまったく言葉を交わした事が無いから何を話していいのか分からないし。

向こうの両親との共通点といえばウチのお父さんの事ぐらいだし・・・。

向こうの両親とか兄弟の事は置きっぱなしで放置している釣書を見ればある程度の事は分かるけど、何分本人の事は本人に聞かないと分からないだろうしねえ。

うーん。どうしようかな？

しばらく考えて、閃くようにいい事を思い出した。

そういえば、同じ営業にいる美香ちゃんが「岡崎 樹」のファンクラブの一員だったような気がする。

もともとおしゃべりな子だからそれとなく聞けば勝手にいろんな情報を教えてくれるかもだし。途端に気持が楽になり、どんと来いて気持ちになった。

いくら興味を持たない事って言われても必要最低限の事は知っても仕方ないし、それは否定できないはず。

それがイヤだって言うならいつでも婚約破棄してくれて結構。

ワンルームマンションで一人息巻いてる私は他から見たら危ない人かも知れない。誰もいなくて良かった。

何しろ長文メールの最後の方に、間隔をこれでもかってぐらい開けて、まるで追伸みたいな感じで「日にちななどの具体的な説明をウチの両親にしたいから都合の良い日を教えてほしい」と書いてあるのに気が付いた。

なんなのよ

もし気付かなかったらどうすんのよ。とりあえず今すぐ返事しなくてもいいんじゃない？と思って、「夜にメールします」と簡単な返事をして携帯を閉じたけど、試されてるみたいで嫌だ。

キーツ。ムカつく

それを、まるで待っていたかのように着信音が鳴り響き

「祥子、今どこにいるの？」

捲し立てるのは、きっとこのお見合いに一枚かんでるであろうと思われる香からだった。

そろそろ準備しなくちゃいけないですが、それはあんまりじゃない？（後書き）

香さん間違はなく黒ですね。でも、もっと腹黒い人がいますねえ

もしかして、あなたもゲルなの？（前書き）

香さんは果たして・・・

もしかして、あなたもグルなの？

「ちょっと家出てるけど・・・どうしたの？」

電話を掛けてくるにしてもタイミングが良すぎて「岡崎 樹」ともグルなんじゃ？と疑ってしまう。

まさか一緒に居るなんて事はないよね？だって香は和合さんと結婚式の打ち合わせをするって一緒にいるはずなんだから、そんな事は無い事を祈るしかないか・・・

何しろ香は好奇心の塊みたいな所があるからなあ。心の中で溜息を吐いて香の返答を待った。

「亨がね、祥子も追っかけ式を挙げるからいろいろ聞いてみてもいいんじゃないかって言うから電話してみたんだけど、今、岡崎さんと一緒にいるの？」

亨ってのは和合さんの事だから、とりあえず「岡崎 樹」と一緒に居る訳じゃないことにホッとした。

でも、こちらとしては一番聞かれたくない事を聞かれて言葉に詰まる。別に誰といてもいいんだろうけど、一人で居るって事は問題だったかな・・・。

下手にワンルームマンション借りて一人でいるなんて言ったら、きっと乗り込んで来られるのは避けられないだろうし、そんな事になったら、すべての事を暴露しなくちゃいけない。そんな事になったら大問題になるのは間違いない。



うん。さっき買い物してたからウィンドウショッピングしてたって  
言っても、あながち嘘でもないし、そういう事にしておこう

「いや、今日はちょっとウィンドウショッピングの気分だから一人で  
ブラブラしてただけ。」

冷や汗をかきながらそう言う

「そつかあ。ごめんね。最近誘えなくて。でも、あの占い当たっちゃ  
ったんじゃない？」

嬉しそうに笑う香がうらやましい。あり得ない話に、つい眉間にし  
わが寄ってしまう。

もし、私が本当にそう思っていたら、どんだけおめでたい奴なんだ  
か。「岡崎 樹」にはお見合いの日以来話したことも無い。もつと  
も話したくもないから困りもしないけど。お互いがお互いを「利用  
し、利用される」関係だからそれでいいと思っている。

「そつかもね。」

思ってもいないセリフを親友に吐くのに些か心が痛むけど、仕方  
ないか。

「ところでね、もうドレスとかブーケとか決めたの？」

ドレスを決めるのもブーケを決めるのも二人ですと思っているの  
か、それと私が選んで押し切ると思っているのか、香の考えをいま  
ち掴めないけど、決める時期に来てる事だけは確かなんだな。漠然

とそう思っ

「まだ完全に決めてはいないんだけど、希望はね・・・」

昔みた映画の主人公が着てたウエディングドレスを思い描いてみる。  
私だって女の子だもん素敵なものを選びたい。

でもブーケは持たずカラーを持ちたいと思ってる。

カラーは海外ではお葬式に使う花らしいから、人生の墓場に丁度いいんじゃない？日本ではそんなこと関係なさそうだから、ささやかな私の嫌がらせにあの人は気付くかな？

香にも本当の事は言えないけど。話しながら一人ニヨニヨしていると

「だってさ。どう思う？」

「んーそうだなあー」

って誰と話してるのよー。さっきからやたら復唱するなあと思ってたら、誰かに聞かせてたって事？

もしかして、あなたもゲルなの？（後書き）

香さんと一緒にいるのは誰なんだろう

人の幸せ蜜の味？

「ちよつとお。誰と喋ってんのよ」

ムツとした口調に気付いた香が

「心配しなくても岡崎さんとは一緒じゃないから。そんな気になるんなら一緒にいればいいでしょ？」

ってそういうんじゃないんだけどな。まっそんな気もないけどそう思いながらも、香の着るウエディングドレスとかブーケの話をしていると、あっという間に時間が過ぎてしまい、これから出掛けるといふ二人の予定を狂わせないように電話を切った。

「ハァー。結婚かぁ」

盛大に溜息を吐いて床に転がり大の字に伸びてみた。

香のウエディングドレス姿はさぞやきれいなんだろうな和合さんだって背が高いからタキシードが似合いそうだし、まさにお似合いのカップルだな。まるでヒト事みたいにボーっと想像していた。

とりあえず、今度の休みにウエディングドレス選びに行ってみようかな？ようやく私も重い腰を上げて動く事に決めた。

日曜日の夕方という事もあって、そろそろ帰ろうかなと帰り支度したところにはすっかり「岡崎樹」から来たメールの内容などすっかり忘れてしまい、大事な事をすっかり忘れていたのは不覚だったとか言いようがなくて、後で思いつきり後悔してしまった。

週明けに出社するとなぜか「岡崎樹」がウチの課に居て和合さんと何か話をしてて、それを見てようやく昨夜連絡するのを忘れていた事を思い出し目立たないようにそーっと廊下に逃げた。

幸いまだ気付かれてないような感じだったので急いでトイレに隠れて「昨夜は連絡できなくて申し訳ありませんでした。今夜にでも両親と話をして連絡します」とメールを打った。

何食わぬ顔をして廊下に出ると、まさかの鉢合わせで・・・思いつきり睨まれたものの、社内では無闇に話しかけないでと言ったのが功を奏したのか話しかけられる事はなかったけど、その視線はゾクツとするほど冷たくて思わず身震いしてしまう程だった。

だって・・・忘れてしまったものはしょうがないじゃん？確かに忘れたのはいけない事だけど、あそこまで睨む必要ってある？ヤダヤダ。

自分の事は棚に上げて、一人ブツブツ文句を言っているとニコニコ顔の和合さんに、

「岡崎と付き合ってたの？」

いきなりの爆弾発言に

「ええーっ」

と思わず声を上げてしまい、課長に怒られてしまった。

なんだか今日は踏んだり蹴ったりだと落ち込んでいると、和合さん

がコーヒーを淹れてくれて

「ドンマイ」

と励ましてくれたけど、あれ？そもそも和合さんが変な事言い出したからじゃ・・・？

でも、和合さんからはその後何も追求されなかったから良しとするか・・・

人の幸せ蜜の味？（後書き）

更新が遅くて申し訳ありません。

仕事がなかなかキリつかないんです・・・

気長にお待ち頂けるとありがたいです

手強い相手なんですよ？

定時で会社を後にすると大急ぎで帰り母親に事情を話して何とか今度の週末を空けて貰った。

「どうせなら大輔と知美も呼ぼうか」

思いがけなく兄と姉の名前が出てきて、まさかそんなに大それた事にしようとは思ってもせずに

「いや、そこまでしなくてもいいんじゃない？」

と暴走しそうな母を押し止めようとするけど

「でも、大輔も知美も祥子の結婚相手に会いたかったのよね・・・祥子がなかなか岡崎さんを家に連れてこないから大輔なんか会いに行こうかななんて言ってたのよ？まったく相変わらず過保護なんだから」

だからお姉ちゃんがこの頃ウチに入り浸りだった訳か。

じつは結婚なんかしたくないのに結婚したという実績が欲しいのもこの二人がそれとなくつついてくるからなんだけど

・・・そう、何を隠そう兄弟は少し年が離れてるからなのかシスコンというか過保護というか、とにかく世話焼きでいまだになんだかんだと口を出してくる。

私はもう小学生じゃないってのって言いたいぐらいの時もあったけ



ど、二人ともそれぞれ優しい伴侶に恵まれてから優しく見守ってくれるってレベルに落ち着いている。

それが久しぶりに暴走しそうな予感が・・・外れてくれればいいけど、外れてくれないと面倒な事になりそう。

クワばらくわばら。

どうか穏便に物事が進んでくれればいいんだけどという私の願い空しく

折角の土曜日はこれから何かイベントでも開催されるの？とツッコミを入れたくなるほど我が家のメンツが勢ぞろいして、ただでさえ広くもない家の中がますます狭く感じる程だった。

手強い相手なんですよ？（後書き）

今回はちょっと短め

嘘つき？取り繕い？辻褄合わせ？（前書き）

遅くなりました。

岡崎が実家を訪れましたが・・・

嘘つき？取り繕い？辻褃合わせ？

かくして「岡崎 樹」とは

メールで何度か訪問する時間とか家がどの辺りで迎えに行く必要があるかとか（迎えは要らないって事だった。分からなかったら携帯でググルからいいって）最低限の打ち合わせをただけで顔を合わせないまま当日を迎えてしまった。

それでも当たり前のように時間通りウチにやってきて、やたら胡散臭い笑顔を振りまき

「ご無沙汰して申し訳ありません。岡崎と申します。祥子さんとは良いお付き合いをさせていただいています。」

開口一番ありもしない嘘をスルスルと並べ立て真摯な態度をとりつつ褒め殺ししない程度に持ち上げるといふ口の巧さを駆使して私以外の女性陣を虜にした。

おい。お母さんもお姉ちゃんも目がハートになってますよ。あーあすっかり騙されちゃってもー。

そして男性陣にも嫌みなく、たおやかに下手に出るといふ大人な技を使い、すっかり気に入られたようだった。

それが分かったと感じたからなのか、巧く行っと思ったのか、これまた打ち合わせの時間通りに帰って行った。

まっ、元々今回のお見合いからしてこちらから断わるって選択肢は

無いようなものだったから、そうでもしないと元からブチ壊しになるって事が分かってての行動なんだろうねえ。

さすがだよ坊ちゃん。面の皮の厚さは、ひよっとすると私なんかの比じゃなくて負けるかもしれないね。

なにしろ岡崎家の二男坊。

小さい頃からなんでも卒なくこなすイケメン君で仕事もバリバリこなすし出世も間違いないらしい。

それに誰にでも優しいし、面倒見も良いとくれば誰でも狙っちゃうよねえって、これは美香ちゃんの弁。

要するに外ズラが半端なくて、やり手で要領がいいって事か？誰にでも優しいってのは眉つばモノだって。

これは観察して導き出した私の見解。きつと興味のないモノはトコトン興味を示さないっていうか、どうでもいいんだろっねこの人は。

だから結婚するって事実を覆さないために表面上だけ繕ってるんじゃないかな。ご苦労なこった

嘘つき？取り繕い？辻褄合わせ？（後書き）

岡崎も独自の情報網でいろいろ調べました。

だんだん腹の探り合いになってきてますが、それはお互い知らない事だったりします

俺の状況（前書き）

岡崎目線の話です

## 俺の状況

仕事中

「岡崎主任、チェックお願いします」

渡された書類の中に時期外れの住宅手当申請が出ているのを見つけた。

ある意味俺の目に留まったのはラッキーだったかもしれない。

名前を確認すると数カ月後に俺と結婚する予定の女の名前が書いてあり、申請書だから当たり前ではあるけど、ご丁寧にも住所その他諸々の事が書いてあり、個人情報thatモロ分かりだった。どんな事情があるのかは予想もできない事だが、とりあえず個人情報の諸々は他の奴の目を盗んで控えさせてもらった。

もし何か事が起きた時全然何も知らないというのでは心もとない。

いくらお互いに興味を持たない事って言ったって、彼女がするような完全無視ってのはどうかと思う。

社内で見かける時がたまにあっても、知らないふりをするし、例えばすれ違う事があったとしても、目を合わせないようにしているみたいだ。

いくら俺でも軽くヘコむ。

いくら一年限定だとしても、お互いにある程度の情報を共有してお



く事も必要じゃないかと思うし、そのためにも少しぐらい話をして  
も仕方がないと思う。

でも、しばらく話すタイミングを何度も逃し、彼女は俺と話したく  
ないんだという事に思い至った。

それなら俺ばかりが焦る必要はない。諸連絡はメールでやり取りす  
ればいいだけの事だし、伝わりさえすれば別に構わない。

確か所属は和合と同じ所なはずだ。最悪の場合和合に伝えて貰うの  
も仕方がないか。

絶対に避けたい方法だが、背に腹は代えられない。切羽詰まってど  
うしようもない時の切り札にしておくか・・・

何しろ和合は乗り気じゃない俺と彼女を面白がって見ているだけな  
のだから。

きっと俺達が結婚を取りやめると言ったとしても別に驚きもせず、  
春香を口説き落としたのかどうかを聞くだけだろうと思う。

なにしろ和合は、俺が結婚する相手は春香じゃ無ければ誰でも同じ  
だということを知っているから余計始末が悪い。

和合は馬鹿じゃないから、それを彼女に教えたりはしないとは思う。

だが、これが彼女の耳に入れば、間違いなく破談になるだろうって  
事は予想が付く。

もちろん、ついこの間まで赤の他人だった彼女を傷つけていい道理

がない事は充分に承知しているからこそ、和合こそが俺のアキレス腱である事は間違いないな。

和合には大きな借りを作ってしまった感が否めない。今度何か奢つてチャラには・・・出来ないだろうな。そんなに簡単なものじゃない事は自分が一番分かっている。

せめて近々結婚式を挙げるアイツを盛大に祝ってやるか。

俺の状況（後書き）

和合さんキーマンですかね？

それは追々分かっていきます（多分・・・）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6918w/>

---

三日月

2011年11月30日14時51分発行